

Special Exhibition Celebrating the Completion of Repairs to Jōruriji's National Treasure Amida Statues

Numinous Minamiyamashiro

Treasures from the Mountains between Nara and Kyoto

2023.7.8(土) - 9.3(日)

前期展示 - 7月8日(土) - 8月6日(日) 後期展示 - 8月8日(火) - 9月3日(日)

開館時間 午前9時30分～午後6時(入館は閉館の30分前まで)
休館日 月曜日(ただし、7月17日は開館)、7月18日(火)

主催 奈良国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪

後援 京都府、京都府教育委員会、木津川市、京田辺市、城陽市、井手町、宇治田原町、笠置町、精華町、南山城村、和束町

協賛 JR東海、竹中工務店、NISSHA、福寿園 特別協力 京都南山城古寺の会

協力 京都山城地域振興社、日本香堂、仏教美術協会

聖地 南山城

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展

みなみ

やま

しろ

奈良と京都を結ぶ
祈りの至宝



奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

左:国宝 阿弥陀如来坐像(9軀のうちその1) 平安時代(12世紀) 京都・浄瑠璃寺[木津川市]
右:重要文化財 四天王立像 鎌倉時代(13世紀) 京都・海住山寺[木津川市]

《報道関係者お問い合わせ先》

「特別展 聖地 南山城」広報事務局 (TMオフィス内) 馬場・永井・西坂

MOBILE : 090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

TEL : 050-1807-2919 FAX : 06-6231-4440 E-MAIL : minamiyamashiro@tm-office.co.jp

開催趣旨

京都府の最南部、奈良市に隣接する地域は旧国名の山城国にちなんで、いま「南山城（みなみやましる）」と呼ばれています。なだらかな山間を木津川が流れる風光明媚な地であり、仏教の伝来後、7世紀にはこの地域でも寺院の建立がはじまりました。

南山城が歴史の表舞台に登場するのは、聖武天皇の^{くに きょう}恭仁京造営によってであり、木津川への架橋や寺院の建立などに^{ぎょうき}行基の活躍がありました。平城京から長岡京・平安京への遷都以降も南山城は新旧両都をつなぐ回廊的な役割を果たす地域として、重要性を増すこととなります。東大寺や興福寺といった奈良の大寺との深い関わりのなかで寺院があいついで建立され、また木津川流域の山々は俗世を離れた聖地として山岳修験の拠点とされました。

鎌倉時代には、はじめ興福寺に学んだ^{げだつしょうにんじょうけい}解脱上人貞慶が^{かさぎでら}笠置寺から^{かいじゅうせんじ}海住山寺へと拠点を移し、釈迦如来や弥勒菩薩、観音菩薩に対する信仰を深めるとともに、南都の^{かいじゅうせんじ}戒律復興に努めたことが特筆されます。さらに江戸時代には、各地で念仏を広めた^{たいちゅうしょうにん}袋中上人が晩年に^{みかのはら}瓶原[木津川市加茂町]を拠点とするなど、南山城は各時代を通じて文字どおり日本仏教の聖地でありつづけました。

本展は、5か年に及ぶ保存修理が完成した^{じょうる りじく たい あ み だ そ う}浄瑠璃寺九体阿弥陀像のうち2軀を修理後初公開するとともに、その優美な姿を寺外で拝することのできるまたとない機会となります。さらに南山城とその周辺地域の寺社に伝わる仏像や神像を中心に、絵画や典籍・古文書、考古遺品などを一堂に展観することで、この地に花開いた仏教文化の全貌に迫ります。多彩な作品を通して南山城のゆたかな歴史と文化を再認識していただくとともに、緑深いこの地域にいまもなお受け継がれる聖地の息づかいをご堪能ください。

◆南山城地域を代表する寺院の紹介映像

<https://youtu.be/-3mPiMizsRo>



笠置寺弥勒磨崖仏 遠景

1. 九体阿弥陀修理完成記念－明治期以来、およそ110年ぶりの修理

浄瑠璃寺の本尊、国宝 阿弥陀如来坐像（九体阿弥陀）
は、明治42年から43年（1909～1910）以来、およそ
110年ぶりに保存修理がおこなわれました。平成30年
（2018）より5か年の計画で実施された保存修理が本
年3月に完了し、最終年度に修理したその1とその8を
特別公開します。

（右）①国宝 阿弥陀如来坐像（9軀のうちその1）
平安時代（12世紀） 京都・浄瑠璃寺〔木津川市〕
（左）②国宝 阿弥陀如来坐像（9軀のうちその8）
平安時代（12世紀） 京都・浄瑠璃寺〔木津川市〕



2. 十二神将像、140年ぶりに里帰り。本尊の薬師如来と再会

現在、東京の静嘉堂文庫美術館と東京国立博物館が分蔵する十二神将像は、浄瑠璃寺三重塔の薬師如来像
とともに江戸時代までは浄瑠璃寺に祀られていました。その後、十二神将は明治17年（1884）ごろまで
にすべて寺を離れましたが、今回12軀揃っておそらく初めての里帰りが実現します。実に140年ぶりのこ
とです。



- （中央）
③重要文化財 薬師如来坐像 平安時代（11世紀） 京都・浄瑠璃寺〔木津川市〕 展示期間：7/9～8/6 画像提供：京都国立博物館
※薬師如来坐像の展示は7月9日（日）からとなります。
- ④重要文化財 十二神将立像のうち 辰神・巳神・未神・申神・戌神 鎌倉時代（13世紀）東京国立博物館 画像提供：東京国立博物館
重要文化財 十二神将立像のうち 子神・丑神・寅神・卯神・午神・酉神 鎌倉時代（13世紀）、亥神 鎌倉時代 安貞2年（1228）
東京・静嘉堂文庫美術館 画像提供：（公財）静嘉堂／DNPartcom

3. 南山城地域の魅力的な仏像・神像を公開

◆重要文化財 やくしによらいざそう 薬師如来坐像

小さな像ですが、ゆったりと坐す姿には実物以上のスケールの大きさが感じられます。柔らかな衣のひだは、奈良時代の乾漆造りの像を髣髴とさせ、この像が伝わった和束の地が奈良に近いことを思わせます。

同じく南山城の蟹満寺に伝わる阿弥陀如来坐像は、大きさこそ異なるものの体型や足先を衣に包む形式が本像そっくりです。とてもよく似たふたつの如来像を揃って展示します。

⑤重要文化財 薬師如来坐像 平安時代（9世紀）
京都・薬師寺〔和束町〕



◆重要文化財 ぼさつぎょうりゅうそう 菩薩形立像

現在、常念寺の薬師堂に安置されますが、かつては近隣にある祝園神社にまつられており、明治時代に常念寺に移されました。丈の高い宝冠をかぶり、上半身にたすき状に衣をかけ、下半身に布をまとう菩薩の姿でありながら、昭和25年（1950）の修理以前は左手に薬壺をとっていたことが古い写真により知られます。さらに本像に十二神将像（江戸時代）が随侍することからも薬師として信仰されてきたのは明らかです。平安時代に神仏習合の過程で生み出された菩薩形の薬師像の貴重な遺品とみられます。

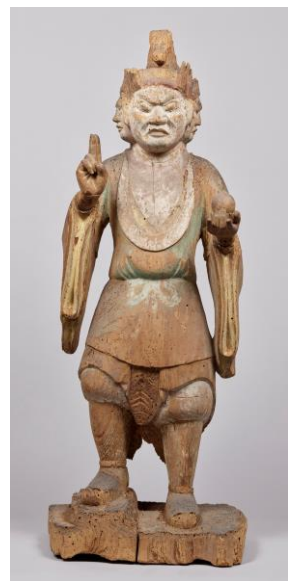
⑥重要文化財 菩薩形立像（部分） 平安時代（9～10世紀）
京都・常念寺〔精華町〕
画像提供：精華町教育委員会



◆京都府指定文化財 ごずてんのうりゅうそう 牛頭天王立像

京田辺市の朱智神社に鎮座する像です。忿怒相で炎髪を立て、頭頂には牛頭をあらわしています。牛頭天王は、そもそも災いをもたらす神だったようですが、社殿を設けてうやうやしく祀ることで災いを防ぐ神に転ずるという信仰がありました。朱智神社は山城・河内・大和の三国の境界の山城国側に位置しており、他の国からの邪鬼の侵入を防ぐために本像を祀ったと推測されます。神社の外へのお出ましはめったになく、貴重な機会となります。

⑦京都府指定文化財 牛頭天王立像
平安時代（10～11世紀）
京都・朱智神社〔京田辺市〕



開催概要

和文名称 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地 南山城－奈良と京都を結ぶ祈りの至宝－」
英文名称 Special Exhibition
Celebrating the Completion of Repairs to Jōruriji's National Treasure Amida Statues
Numinous Minamiyamashiro

Treasures from the Mountains between Nara and Kyoto

会期 2023年7月8日（土）～9月3日（日）前期展示：7月8日（土）～8月6日（日）
後期展示：8月8日（火）～9月3日（日）

開館時間 午前9時30分～午後6時（入館は閉館の30分前まで）

休館日 月曜日（7月17日は開館）、7月18日（火）

会場 奈良国立博物館 東・西新館

観覧料

券種	一般	高大生	小中生
前売・団体	1,600円	1,100円	400円
当日	1,800円	1,300円	600円

主催 奈良国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪

後援 京都府、京都府教育委員会、木津川市、京田辺市、城陽市、井手町、宇治田原町、笠置町、精華町、南山城村、和束町

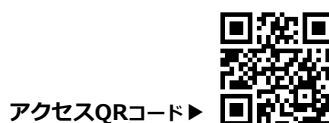
協賛 JR東海、竹中工務店、NISSHA、福寿園

特別協力 京都南山城古寺の会

協力 京都山城地域振興社、日本香堂、仏教美術協会

公式サイト <https://yamashiro-nara.exhn.jp/>

公式ツイッター @m_yamashiro2023



アクセスQRコード▶

展覧会構成

第1章 恭仁京の造営と古代寺院

奈良時代、天平12年（740）に聖武天皇が山城国南端に恭仁京を造営し、同16年までの短い期間ながら、この地に都が置かれました。本章では、古代寺院に祀られた仏像や発掘調査に際して出土した考古遺品などから、南山城地域に花開いた仏教文化の様相を探ります。



⑧重要文化財 十一面観音立像 平安時代（10世紀）
京都・海住山寺【木津川市】



⑨重要文化財 十一面観音立像 平安時代（10世紀）
京都・禪定寺【宇治田原町】 画像提供：京都国立博物館

第2章 密教の広がりや山岳修験

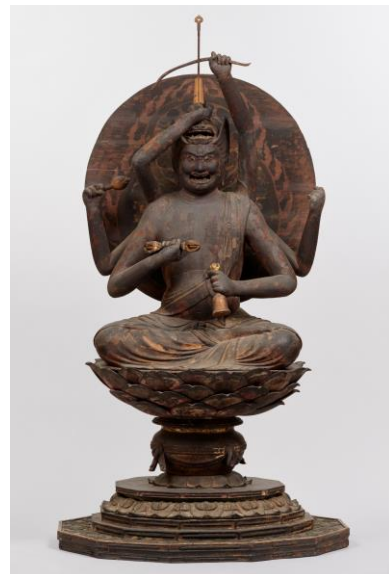
平安時代のはじめに最澄や空海ら入唐僧によって密教がもたらされると、各地の山岳に寺院が建立されました。本章では木津川流域の山岳寺院にゆかりのほとけとともに、南山城地域にまつられる神々の姿を紹介します。



⑩京田辺市指定文化財 降三世明王立像
平安時代（12世紀） 京都・寿宝寺〔京田辺市〕
画像提供：京都国立博物館



⑪京田辺市指定文化財 金剛夜叉明王立像
平安時代（12世紀） 京都・寿宝寺〔京田辺市〕
画像提供：京都国立博物館



⑫重要文化財 愛染明王坐像
平安時代（12世紀）
京都・神童寺〔木津川市〕

第3章 阿弥陀仏の浄土

平安時代後期には浄土信仰が広く浸透し、9体の阿弥陀如来像を安置する九体阿弥陀堂が多く造られました。本章では保存修理によって面目を一新した浄瑠璃寺九体阿弥陀像とともに、浄土信仰の聖地にゆかりのほとけを紹介します。



②国宝 阿弥陀如来坐像（9軀のうち その8）
平安時代（12世紀） 京都・浄瑠璃寺〔木津川市〕



①国宝 阿弥陀如来坐像（9軀のうち その1）
平安時代（12世紀） 京都・浄瑠璃寺〔木津川市〕

第4章 げだつしょうにんじょうけい 解脱上人貞慶と弥勒・観音信仰

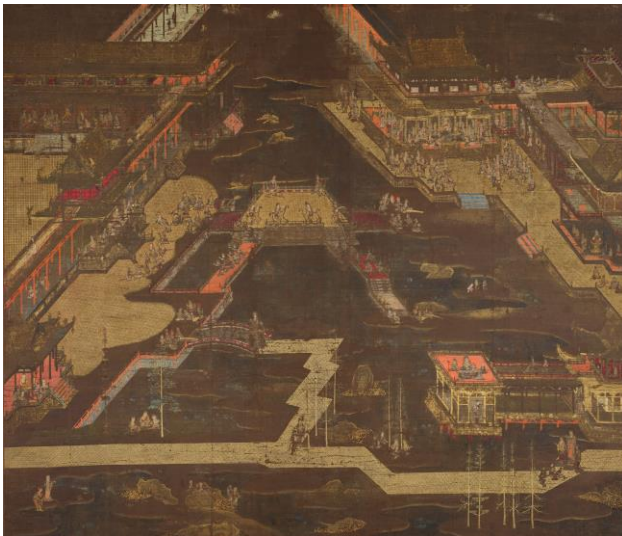
鎌倉時代のはじめ、解脱上人貞慶（1155～1213）は興福寺から笠置寺、さらに海住山寺へと拠点を移し、釈迦如来や弥勒菩薩、観音菩薩に対する信仰を深めるとともに、南都の戒律復興に努めました。本章では貞慶をめぐる2つの聖地に焦点をあて、その信仰世界に迫ります。



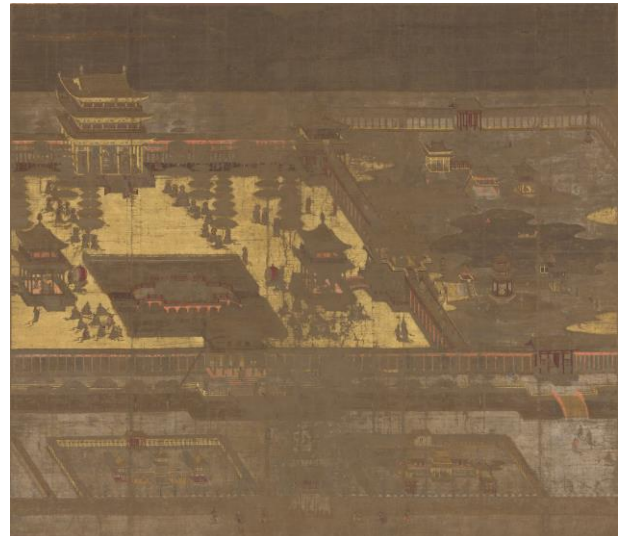
⑬重要文化財 四天王立像 鎌倉時代（13世紀）
京都・海住山寺【木津川市】



⑭重要文化財 梵鐘 鎌倉時代 建久7年（1196）
京都・笠置寺【笠置町】



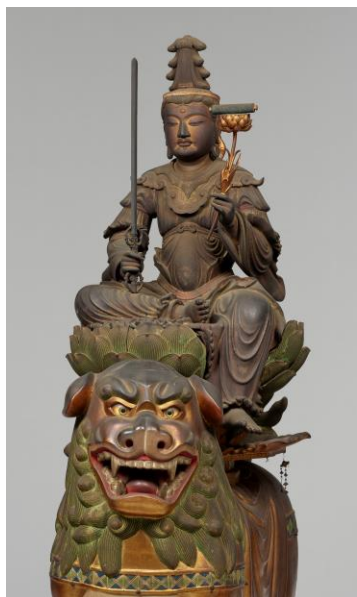
⑮京都府暫定登録 阿弥陀浄土曼荼羅 鎌倉時代（13世紀）
京都・海住山寺【木津川市】 前期展示



⑯重要文化財 兜率天曼荼羅 鎌倉時代（13世紀）
京都・興聖寺【京都市】 前期展示
画像提供：京都国立博物館

第5章 行基と戒律復興

木津川に架かる^{いずみおおし}泉大橋は、東大寺大仏の^{そりゅう}造立で有名な行基が初めて架けたと伝わります。本章では文殊菩薩の化身とされる行基への信仰とともに育まれた南山城地域の律宗文化を紹介します。



⑰重要文化財 文殊菩薩騎獅像 鎌倉時代（14世紀）
京都・大智寺【木津川市】



⑱重要文化財 十一面観音坐像 鎌倉時代（13世紀）
京都・現光寺【木津川市】

第6章 禅の教えと一休禅師

本章では、南山城を代表する禅宗寺院である酬恩庵（一休寺）に伝わった肖像や墨蹟などゆかりの寺宝を通じて、この地に花開いた禅宗文化を紹介します。



⑲重要文化財 一休宗純像
自賛 室町時代（15世紀）
京都・酬恩庵【京田辺市】
後期展示

第7章 近世の南山城と奈良

近世のはじめに^{みかのほら}瓶原（木津川市加茂町）を拠点として念仏を広めた^{たいちゅうりょうじょう}袋中良定。本章では袋中のような奈良と京都を往来した僧侶をはじめ、多くの人や物資が行き交った南山城の活況を紹介します。



⑳袋中上人坐像 江戸時代（17～18世紀）
京都・鶯瀧寺【木津川市】

1. 仏像大使にみうらじゅんさん、いとうせいこうさんが就任！

みうらじゅんさん、いとうせいこうさんが本展の仏像大使（広報大使）として就任しました。

展覧会オリジナルグッズの開発や音声ガイドへの特別出演などの活動を行うほか、会期中にトークショーを開催します。

◆3月下旬に開催されたグッズ開発会議の映像⇒

<https://youtu.be/oVrpg2gMSD8>



みうらじゅん氏



いとうせいこう氏

2. 横山由依さんが音声ガイドナビゲーターに決定！

女優／タレントの横山由依さんが音声ガイドナビゲーターを務めます。横山さんは南山城地域の中心部である京都府木津川市の出身で、「京都やましろ観光大使」も務められています。



関連展覧会

和文名称 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「京都・南山城の仏像」

英文名称 Special Exhibition

Celebrating the Completion of Conservation Work on Jōruriji Temple's Amida Statues
Buddhist Sculptures from Minami Yamashiro in Kyoto

会期 2023年9月16日（土）～11月12日（日）

開館時間 午前9時30分～午後5時

休館日 月曜日（9月18日、10月9日は開館）、9月19日（火）、10月10日（火）

会場 東京国立博物館 本館特別5室

主催 東京国立博物館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京

協賛 JR東海、竹中工務店、NISSHA

特別協力 京都南山城古寺の会

公式サイト <https://yamashiro-tokyo.exhn.jp>

観覧料 当日 一般1,500円、大学生800円、高校生500円

《報道関係者お問い合わせ先》

「特別展 聖地 南山城」広報事務局（TMオフィス内）馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：minamiyamashiro@tm-office.co.jp

参考動画一覧

- ◆南山城地域を代表する寺院の紹介映像

<https://youtu.be/-3mPiMizsRo>



- ◆本展の見どころについて、担当研究員による説明動画

<https://youtu.be/hyxxu2f5rxQ>



- ◆本展の展覧会構成について、担当研究員による説明動画

<https://youtu.be/Diw9uapo2o4>



- ◆仏像大使によるグッズ開発会議の映像

<https://youtu.be/oVrpg2gMSD8>



《報道関係者お問い合わせ先》

「特別展 聖地 南山城」広報事務局（TMオフィス内）馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：minamiyamashiro@tm-office.co.jp